

# 若宮西遺跡（第7次調査）の発掘調査成果

～古墳時代の竪穴建物跡の発見～

西尾市教育委員会文化財課

調査期間 令和4年6月28日～7月14日  
調査場所 寺津町枯木地内  
調査原因 個人住宅建設に伴う緊急発掘調査  
調査面積 40㎡

## 調査の経緯

若宮西遺跡は寺津小学校・寺津中学校一帯に広がる弥生・古墳時代・中世にわたる複合遺跡です。遺跡の一部は縄文時代晩期の枯木宮貝塚と重なっています。

これまでに6次にわたる発掘調査が行われ、弥生時代の墓、古墳時代の竪穴建物23棟、中世の屋敷地などが見つかっています。

今回の調査は事前に試掘調査を行った結果、遺構遺物が確認されたため、住宅建設に伴い駐車場造成によって遺構が破壊される部分を対象に行いました。

## 調査の概要

調査の結果、古墳時代の竪穴建物2棟が重なりあって見つかりました。

### 古墳時代の竪穴建物1

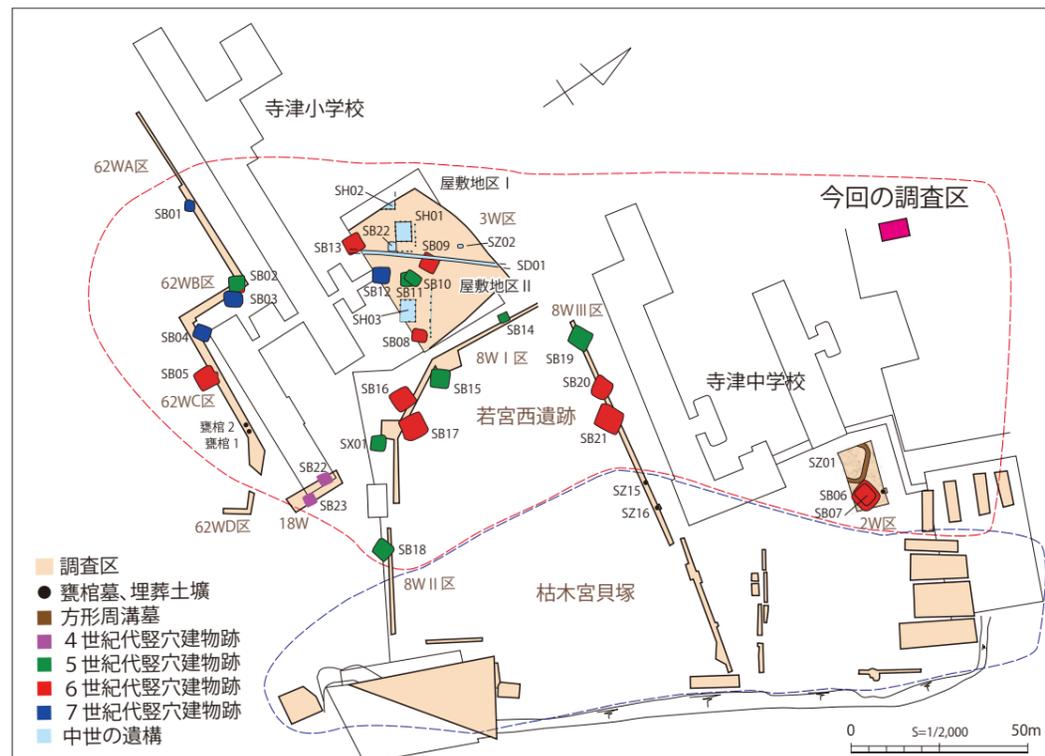
調査区の南側で検出されました。確認できた規模は東西4.3m、南北4.6mです。床面中央付近では炉跡が2ヶ所で確認されましたが、柱穴や周溝などはみつかりませんでした。

出土した遺物から5世紀後半の建物と推定されます。

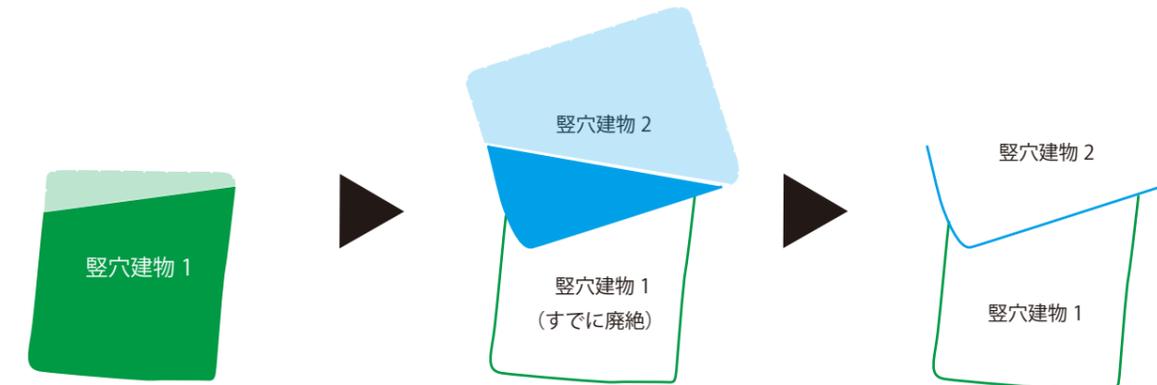
### 古墳時代の竪穴建物2

調査区の北側で検出されました。確認できた規模は東西5m、南北2.4mで、大半は調査区外へと続いています。柱穴1基・周溝・貯蔵穴が確認されています。

遺構内からは土師器・須恵器のほか、製塩土器・土製紡錘車・土製管玉が出土し、6世紀後半の建物と推定されます。



これまでの調査位置図



- ① 5世紀後半  
竪穴建物1が建てられました。  
\*薄い部分は推定
- ② 6世紀後半  
竪穴建物2が竪穴建物1北側を削って建てられました。
- ③ 現在  
2棟の竪穴建物跡が重なった状態で見つかりました。



竪穴建物からの出土状況

竪穴建物1に比べ、竪穴建物2からは須恵器を中心に多くの遺物が出土しました。



竪穴建物からの出土遺物

手前の台形の土製品が紡錘車、その横の細長い土製品が管玉です。

## 調査のまとめ

今回の発見により古墳時代のムラがさらに北へと広がっていたことが確認されました。ムラの規模は南北200m×東西100mとなり、三河湾海岸部の大規模なムラの実態が少しずつ明らかとなってきました。